

經濟論叢

第161巻 第1号
野澤正徳教授記念號

献 辞	本山美彦	
G. リューメリンの社会統計論	長屋政勝	1
イギリスの福祉改革とボランティア組織	川口清史	34
ヘーゲル論理学・有論 「質」と「資本」の論理	角田修一	48
インターネット／イントラネットの 経済的・社会的利用の諸形態	小林正人	68
各国通貨単位の資本労働比率変動と マクロ収穫率	大西 広	93
投入産出構造・緩衝在庫・販売予測	森岡真史	108
外生性の実践的検定手法	井宮泰憲	133

野澤正徳 教授 略歴・著作目録

平成10年1月

京都大學經濟學會

献 辞

野澤正徳先生は、1998年2月19日に63歳の誕生日を迎えられ、1998年3月31日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、1959年に京都大学経済学部を卒業、大学院に在学された後、教官として本学部に残られ、やがて統計学の講座をご担当になって今日に到られました。

先生のご研究は多方面にわたりますが、中でも部門連関バランス論、社会階級・階層分析、また潜在的過剰人口問題の実証分析では学界から高い評価を受けています。また、社会統計学の方法論上の発展にも多大な貢献をされ、「認識サイクル論」としてその統計的認識論を総括されました。その他、自立と協同を基礎とする日本経済の民主的改革と独自の社会主義論の提唱も日本の経済学界全体に対する大きな貢献として評価を受けて来ました。そして、現在の先生は「情報革命」下の新しい統計学の方向性の提示に腐心され、「インターネットと統計情報」という問題領域でまた次々と研究成果を発表されて来ています。これらの中で先生は日本学術会議経済統計学研究連絡委員会委員や経済統計学会代表運営委員といった学界での重責も果たされました。

他方、先生は、行政面においても、評議員、経済学部経営学科長、大学院経済学研究科長・経済学部長の重責を果たされ、本学および本学部の発展のために多大の貢献をされました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功労とご業績に対して、心からの敬意と感謝の意をこめて、ここに記念号を編集いたしました。先生のご指導を受けられた研究者のうち若干名の労作を集めて、先生に捧げることができましたことは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍くださいますよう、心から期待しております。

1997年12月10日

京都大学大学院経済学研究科評議員 本山 美彦